

# 日本橋

## 老舗めぐりによる 気づき

16N1069 鐘 浩  
16N1075 鈴木 裕登  
16N1088 田中 美海

大和屋  
(江戸末期～)



蛇の市本店  
(1889年～)



鮎住 (1862年～)



山本海苔  
(1965年～)



ほし本  
(1947年～)



● 老舗  
● アートギャラリー

神茂  
(1688年～)



日本橋を渡ると周辺には、海産物関係の老舗が多く存在している。すぐ右にある日本橋魚市場発祥の碑を見ました。



日本橋魚市場発祥の地

### 〈歴史的背景〉

(明治・大正時代)

日本橋と銀座を結ぶ商店街として栄える。

(大正12年)

関東大震災がおこる。京橋を含む下町地域は大きな被害を受けたが、焼け跡となった町の区画整理をし、道路を広く作り直す。

(戦争)

復興した町が再び火の山となるがもう一度再建。

(昭和22年)

京橋区と日本橋区が合併して中央区になる。

(昭和27年)

ブリヂストン美術館が開館。周囲に画廊も増え、美術と骨董の拠点となる。

この地域は、連年では画廊や骨董店などのギャラリーが立ち並び「アートの街」としても知られる。京橋から日本橋に続く「東仲通り」は戦前から骨董美術商の集まる町で「京橋美術骨董通り」とよばれている。現在でも100を超えるギャラリーなどが軒を連ね、春には「東京アートフェア」～日本橋・京橋美術骨董まつり」を開催。世代を問わず国内外の多くの人が日本の美術・骨董に親しみ、作品に触れる機会を作りだしている。



嘉盛堂

並樹画廊



かどまつ 誠心堂



下井美術



### 〈まとめ〉

現在再開発が進んでいるが、京橋とその周辺エリアは、今も昔も多くの人が物行き来し、日本の商業・ビジネスの中心地である。